



市長記者会見資料
平成 26 年 1 月 7 日
福岡総合行政センター地域振興課

越中福岡の菅笠試作品製作について

1. 製品開発のねらい

越中福岡の菅笠は、昨年 10 月に富山県伝統工芸品に指定された。これを追い風として、平成 27 年春の北陸新幹線開業に合わせて、越中福岡の菅笠のブランド化を図り、本市伝統工芸の魅力国内外に発信するため、新たに女性用の菅笠を今回試作したものである。

2. 菅笠の名称

乙女笠おとめがさ（仮称）とした。大伴家持ゆかりの万葉故地である本市には、市の花になっている「かたかご（カタクリ）」を詠んだ家持の歌がある。

もののふの やそをとめ く てらみ うへ かたかご
ものふの 八十娘子らが 汲みまがふ 寺井の上の 堅香子の花

（⑩4143）

万葉集に頻繁に使われている娘子（をとめ）や、乙女座、乙女の祈りなどから、女性用菅笠の名称を美しい響きのある乙女笠（仮称）とした。また、平安時代の高貴な女性が面（おもて）を隠すのに使用した市女笠（いちめがさ）と語感を似たものにした。

また、万葉集には菅や菅笠を詠んだ歌が 50 首余りあり、越中万葉歌では大伴家持が詠んだ次の 1 首がある。

・・・鶴たづが鳴く 奈呉江なごえの菅の ねもころに 思い結むすばれ 嘆きつつ

我が待つ君が 事こと終はり 帰りまかりて・・・ （⑩4116）

（鶴が鳴く奈呉江の菅の根ではないが、心の根元からふさぎこんで嘆きつつ待っていた君が、任務を終えて奈良の都への長期出張から帰ってこられた。）

3. 試作品の経緯と特徴

41 年前に開発されたヘルメット笠は、男性用のイメージが強く、女性用のおしゃれな菅笠を作れないかという検討が、福岡総合行政センター内に設置した「福岡の菅笠ブランド化小委員会」でなされた。そこで、試行錯誤しながら今回試作品を 3 点製作した。

特徴としては、乙女笠は従来の菅笠に比して、小ぶりなものとし、女性の視点で現代風にアレンジし、つばを広げて日除けの効果を上げ、アクセサリーを用いてお洒落に仕上げた。

（福岡の菅笠ブランド化小委員会）

昨年 8 月から活動している。

○委員（女性スタッフ 7 名）

・越中福岡の菅笠製作技術保存会 梅 亜紀枝（デザイン担当）ほか

○製作者

・笠骨 越中福岡の菅笠製作技術保存会会長 木村 昭二

笠縫 越中福岡の菅笠製作技術保存会会員 赤尾 節子 ほか

4. 今後の対応

越中福岡スゲ生産組合、笠骨職人、笠縫職人、問屋等と十分協議しながら、改良を図り、北陸新幹線開業までに新しい製品として打ち出せないか検討を進めていく。